

式 辞

阿武隈の山並みの雪も溶け、満開の梅の香りに、春の息吹を感じる季節。春風とともに勢いよく芽吹き、飛び立とうとする若き十の命が輝くときを迎えました。

今日の佳き日に、田村市教育委員会様をはじめ、多数のご来賓の方々にご臨席を賜り、ここに都路中学校第十二回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことを、卒業生とともに、心より感謝申し上げます。

さて、十名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただいま一人一人に手渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了した証明です。同時に、九年間の義務教育を完全に終了した証でもあります。これから先は、義務ではありません。みなさんは自分で選んだ道を、自分の責任で歩いて行かなければなりません。これが授与しました卒業証書に込められている意味です。

これから新たな人生へ向けて輝いていく皆さんに、言葉を贈ります。

皆さんの、思い出多い中学校生活は、人間として、社会生活を営む上で必要とされる、知識・技能・態度などを身に付ける、大切な時期でありました。加えて、東日本大震災の経験から、どんな困難な状況にも、前向きに進んで行くという、力強さを身に付けた三年間でした。

避難という状況の中でスタートした、中学校生活。旧春山小学校、都路中学校と、二つの学び舎を経験しました。常に心配や不安があったのではないのでしょうか。

都路中学校の本校舎で学校が再開し、二年が経とうとしています。この間、誰も経験のない、学校再会という困難の中で、皆さんは、都路中学校の中心となって、仲間とともに、手探りで道を切り開いていきました。そして、何事にも一生懸命に取り組みました。

中体連や合唱コンクールを始め、スポーツ、文化の各分野で見せた輝きと活躍の数々。例年になく酷暑の中での駅伝の練習。照りつける太陽の下、暑さに耐え、汗にまみれ、後輩を励ましながら走っていた三年生。

時を同じくして、合唱コンクールに向けて、美しいハーモニーを作り上げようと中心となって歌い、少年の主張大会へ向けて自分の思いを蕩々と述べ、英語弁論大会に向けて何度も何度も練習を繰り返していた三年生。

そして、すべての部活動において、仲間とともに目標を達成させようと、

いつもひたむきに努力し、輝いていた三年生の姿がありました。

また、学校行事や、生徒会行事においても、リーダーシップを発揮してくれました。特に、藍爽祭でのすばらしい歌声は、今でも心に残っています。人数は少なくても、これだけできるんだと、態度で示してくれました。

すべての面で力を十分に発揮し、新たな伝統を作ってくれた三年生。その伝統はこれからの都路中学校の礎になっていくことでしょう。

私は、皆さんに三つのことを伝えてきました。それは、「笑顔」「根性」「感謝」です。

「笑顔」でいると楽しくなってきます。周りに人が集まってきます。また、やるべきことをしっかりやる「根性」があると周りの人たちから信頼されます。そして、人のよいところに気づいて「感謝」の気持ちを伝えられる人は、みんなで仲良く生活できます。

皆さんがこれから歩む道は、平坦な道ばかりではないでしょう。困難が待ち受けていても、「笑顔」「根性」「感謝」の三つを忘れずに道を切り開いていってください。

私たち、都路中学校の先生たちは、夢や志に向かって、歩み続ける皆さんを、これからも心から応援しています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。心身ともに大きく成長した姿に、様々な思い出等がよみがえり、感慨もひとしおのことと拝察いたします。都路中学校の教職員一丸となって、卒業生の成長を見守りつつ、精一杯努力して参りましたが、至らなかつた点もあつたかと思ひます。それにもかかわらず、都路中学校にお寄せくださいましたご理解とご協力に對しまして、心より御礼申し上げます。

ご来賓の皆様、仮校舎への避難から、本校に戻つての学校再開という状況の中、これまでの学校教育への深いご理解とご協力・ご配慮に對しまして、ここに厚く御礼申し上げます。そして、本校発展のために、今後とも、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、新しい世界に向かって、胸を張つて、笑顔で飛び立ってください。皆さんの人生に幸多かれと祈り、式辞といたします。

平成二十八年三月十一日

田村市立都路中学校長 富岡 信